

令和２年度 第１回高齢者福祉部会 会議内容概要 （資料４）

と き	令和２年６月３０日（火）午後２時～３時０５分
ところ	近江八幡市総合福祉センター １階ホール
出席者	塚本部会長、寺町委員、深尾委員、辻井委員、中村（公）委員、森村委員、石黒委員、大西委員、谷委員、中島委員、中村（君）委員、佐竹委員、森田委員、村井委員 計１４名
欠席者	杉本副部会長、日比委員、柳委員
傍聴者	なし
事務局	長寿福祉課、介護保険課
審議事項	報 告：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について 議事１：第７期総合介護計画の取組みの実績及び課題等について（部会関係分） 議事２：第８期総合介護計画の推進体系について
内 容	○開会あいさつ（塚本部会長） ○配布資料確認、議長選出 ○審議事項 【報告】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について 事務局よりニーズ調査概要について説明。調査結果報告書は現在作成中であり、後日、配布予定。委員からの質問等は特になし。 【議事１】第７期総合介護計画の取組みの実績及び課題等について 事務局より第７期計画の各種施策のうち、高齢者福祉部会に関係する施策・事業の取り組み状況や課題等について説明。第７期の取り組みや第８期の計画策定に向けて、委員からの意見等を求めた。 <主な意見等> （生きがいづくり、活躍の場に関して） ・老人クラブに参加しない人が多く、加入者は１０分の１という現状。近江八幡と安土の老人クラブ連合会が高齢者の参加について話し合いをしている。市内１０の学区が１本になり連合会が必要。コミセンを中心とした活動が老人会には相応しい。単老で出来ないことは各地区の連合、それでもできない部分は市の連合という形で割り振りが必要。行政が中心となった中で、コミセンを中心として地域の老人会をお互いに助け合い奉仕活動も十分できるように頑張りたい。 ・最近、シルバー人材センターには自治会から除草の依頼が多い。住民が高齢化してボランティアでの草刈りが出来ないと聞く。結局、その地域の高齢者の方々がお金をもらって仕事に行かれるという象徴的な話がある。そのようなことが大変増えている。

・老人クラブは、老人という名前に抵抗があり加入されないので、老人クラブの名称を変えた。そういうことがないと対象者は入ってこない。旧態依然の活動を何十年と繰り返しているのでは進歩がない。まちづくり協議会でも高齢者を対象とした事業、部会があり、そこがシニアに向けて発信することが大事。運動会で老人の部という種目も取り外し、婦人・女性部もなでしこの部とするように変えた。老人クラブでもこのようなことをやってもらいたい。

・地域回想法に興味を持っている。昔使っていた道具などを見ながら思い出す。脳によし、人生によし、地域によし、ふるさとを回想するという手法で理論立てている。そういうことを生きがいの一つとしてチャレンジすることも大事。

・絵屏風を老蘇などでやられている。昔の地域の特色や思い出を絵に書き、絵を見ながら昔を懐かしんで未来を語る。それを小字単位で広げていくのが大事。

(介護予防、健康寿命の延伸に関して)

・すぐに成果が出る部分ではないので、一喜一憂せずに少しずつ活動を継続、積み上げていくことが大事。総合事業も他市町よりは充実し力を入れているので、丁寧に関わり計画に沿ってやればよいと思う。一般の介護予防事業でも、生活支援コーディネーター・認知症地域支援推進員も積極的に活動しており、健康推進課とも連携しながら活動が徐々に展開できているので、継続していただきたい。

(安心して暮らせる環境やしくみづくりに関して)

・86歳の一人暮らしの認知症の方から、昨日も昼夜を問わず43回電話があった。家族にも同じように連絡があるが、家族は仕事があるため着信拒否している。親切にされると勝手に家に上がり込んで仏壇のお供物を食べたり、昼夜を問わず家に来られる。できれば行政で24時間体制の相談窓口を設置してもらいたい。老人会の参加者も減ってきているので、誰か世話をされる方、準備や手伝っていただける若い方を巻き込むことを考えないといけない。ふれあいサロンなどもコロナの影響で出来ていないが、夕方に井戸端会議されていた方も家に引っ込んでしまい、地域の見守り活動が難しくなっている。

【議事2】第8期総合介護計画の推進体系について

第8期計画の推進体系については、第7期計画の体系を踏襲・継続していく考えであることを事務局より説明。方針や取り組みの構成要素について、委員から特に意見等はなく、第7期計画の体系を基本としていくことで了承を得た。

※ 時間の関係上、発言いただけなかった意見等については、後日、書面での提出を依頼した。

○その他 特になし

○閉会あいさつ（事務局）

